



3大ピラミッドエリア横に 「労働者の墓」オープン

株式会社 オーバーシーズネットワーク

ギザの3大ピラミッドエリアの横に位置する、大規模な発掘エリア。
ここでは、ピラミッド建造に携わった労働者達や監督官の大規模な住居跡(ピラミッド
タウン)として、ピラミッド建造の謎や古代エジプト人の暮らしぶりを解明するために
長年にわたり発掘調査が行われてきました。
そのエリアの一部にある労働者の墓3カ所が一般公開されました。



ピラミッド労働者たちの町と墓

紀元前5世紀のヘロドトスは著書「歴史」の中で、10万人の人々が3ヵ月交代でピラミッド
建設の労役に服した、と記しています。しかし1980年代にアメリカのマーク・レイナー博
士率いる隊が「ピラミッド労働者たちの町」を発見。この労働者たちの町の調査研究に
よって、現在では建造に直接かかわった人々は多くても4,000人。さらにそれにかかわる
食糧生産や道具などをつくる職人の数等を入れても、2~3万人の人々のみがかかわって
ピラミッドは建造されたと推定されています。

また、彼らは奴隷ではなく、十分な食料…肉やビールなどを享受しながら建造作業に従
事していた、ということもわかっています。ピラミッドを実際に建造していた人々の約
2,000人の人々が寝泊まりしていた長屋のような宿舎、4日に一度配給されていたという
9,494キロカロリーという驚くほど高カロリーのパンなど、彼らの生活が生き生きとよみ
がえってきました。

彼らは死後埋葬される墓地を、居住区に隣接する丘の斜面に作りました。
現在、「ピラミッド労働者たちの町」の発掘調査を行っている考古学者・矢羽多さんが、
初めて一般公開されたこれらのお墓をご案内いたします。



© Ancient Egypt Research Associates, Inc.
(編集: 矢羽多 万奈美)

エジプト考古学者・矢羽多 万奈美さん

エジプト在住15年目のエジプト考古学者。
1997年、エジプト考古学博物館で研究員。同年英国・リヴァプール大学エジプト考古学
で修士号取得。
2005年よりDr. Mark Lehner率いる米国エジプト調査協会で、ギザのピラミッドを建造
した労働者の町の住居跡の発掘調査に従事。古代屋根材の研究もしている。
最新発掘調査情報を交えながら労働者の墓をご案内いたします。



ピラミッド労働者の町で発掘中の矢羽多さん



墓内部で、供物リストを読む矢羽多さん



© Ancient Egypt Research Associates, Inc.

ピラミッド労働者の町から、労働者の墓を遠望する。
写真左手は図面を引く矢羽多万奈美さん、
中央の男性は河江肖刺博士



労働者の墓全体写真

右手後方にクフ(右手)とカフラー(頂上部のみ)がみられる。



Petetyの墓

「呪いの墓」として有名。墓には「すべてのものよ聞け!!! この墓に入った者たちには、ハトホルの神官が二度打擲するであろう。」などと記されています。



Nefer Theithの墓

彼には二人の妻と18人!!!の子供がいたそうです。墓にはパン作りの様子などが非常に明確に描写されています。また、祭日に供える供物のリストが記されており、そこには「パン」、「ビール」、「鳥」、「牡牛」といった供物が読み取れます。



Ptah Shepsesuの墓

この墓にはさらに小さな堅穴があり、生前彼の下で労働した者たちの墓だと思われる。



★場所/入場料など

墓の位置は、スフィンクス観光終了後の出口から南へ車で約3分の場所にあります。

チケットは、通常のギザエリアのチケットオフィスで購入、その後インスペクター同行の上で遺跡に向かいます。

遺跡のエリアには鉄扉があり、そこからは徒歩で移動。ピラミッドタウン(労働者たちの居住区)を右手に見ながら約3分ほどで、墓地となっている丘のふもとに到着します。

ギザの3大ピラミッドエリアとは別チケットとなり、入場料(2018年2月現在)は400エジプトポンドで、公開されている墓の3カ所すべてに入場可能です。